

*** 今日の健康 (5月) ***

< 海外旅行に備える予防接種の基本 >

全世界どこへ行くにしても、WHO中心に世界的規模で進めているEPI (Expanded Program on Immunization) ワクチンの6種類(以下基本6種)を行っていることが基本です。

EPI ワクチンはポリオ、麻疹、BCG、三種混合DPT (ジフテリア、破傷風、百日咳) です。全年齢すべての旅行者は、6つのワクチンを全て行ってない場合は必ず接種しておきましょう。次に渡航先で流行性があり罹患する可能性のある疾患に対する予防接種になりますが、事前に親や母子手帳などから以前の接種歴、罹患した疾患は調べておきましょう。

< 予防接種の準備 >

渡航の半年前から、最低でも1ヵ月以上前から予防接種の準備を行う必要があります。

生ワクチン (麻疹、黄熱など) の多くは1回の接種で完了しますが、接種後1ヶ月間は他の予防接種が受けられません。不活化ワクチンのほとんどは複数回の接種を行います。破傷風、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、日本脳炎、ジフテリア、破傷風等、はいずれも3回の接種が必要です。1回目と2回目の間隔が約1ヶ月、2回目と3回目が半年から1年になります。通常は2回目まで接種した時点で出国し、3回目は渡航先か一時帰国して接種するようにスケジュールを組みますが、海外で予防接種を受けることは、先進国であれば安心ですが、開発途上国の場合WHO品質基準を満たしたワクチンでない場合もあるので注意が必要です。このため旅行寸前のワクチン接種は避けましょう。また、ある程度予測できる副反応はワクチン接種後10日以内ですので、ワクチン接種計画では、生ワクチンなら旅行前2~3週間前に、不活性化ワクチンなら旅行前3~4日前には終わらせるようにしましょう。

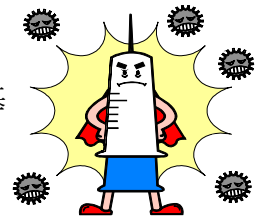
< 異種類ワクチンの同時接種、接種間隔 >

コレラ(経口でない)から黄熱病ワクチン接種は相互作用でワクチン効果減弱の報告があり、間隔は3週間以上必要です。他は複数同時接種が可能です。

< 接種ワクチンの優先順位 >

黄熱ワクチンのように渡航先国から要求されるものは優先して受けなくてはなりません。基本6種のワクチン接種は原則です。全年齢でこれらの基本6種を受けてない場合は必ず接種しておくことが大切です。

基本6種以外のワクチンの必要性は、渡航先での流行の可能性のある疾患、旅行形態、滞在期間で変わります。



< 短期2~3週間以内のビジネス渡航、通常の団体旅行 >

通常は絶対しなければいけないというワクチンは、アフリカや南米など渡航先国から要求される黄熱病ワクチン以外ありません。基本の6種で十分な場合が多いです。

< 1ヶ月以上長期の発展途上国への個人旅行、短期であっても秘境への冒険旅行 >

渡航先の環境に応じて黄熱病、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、破傷風、日本脳炎、黄熱病、ペスト、腸チフス、髄膜炎菌性髄膜炎など必要になることがあります。国内と違った不潔な環境で寝泊まりあるいは衣食することもあり、念入りな予防接種計画を考えた方が良いでしょう。マラリア(内服薬)の予防が必要な地域があります。かかりつけ医師に相談しましょう。

< 予防接種・赴任国情報 > クリックするとホームページに移動します。 >

予防接種：成田空港検疫所 日本検疫衛生協会 国分寺医師会予防接種センター

赴任国情報：外務省 国立感染症研究所 海外邦人医療基金 JICA任国情報 日本旅行医学会
感染症~これだけ知っていれば怖くない! 海外渡航者の健康を考える会

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏